

FISH 検査技術標準化研究会 2021 年度 FISH 検査フォトサーベイ報告

◎島田 直樹¹⁾、藤澤 真一²⁾、安村 奈緒子³⁾、田中 知咲季⁴⁾、郡司 昌治⁴⁾
聖マリアンナ医科大学病院¹⁾、北海道大学病院²⁾、独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター³⁾、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院⁴⁾

【はじめに】FISH 検査技術標準化研究会は、2021 年で第 3 回目の FISH 検査フォトサーベイを向かえた。第 2 回は、サーベイを実施し、回答を参加者に返却した。しかし、Covid-19 の流行によりサーベイ後研修会を行うことができなかった。

【実施内容】病理領域は HER2 FISH で 10 題と ALK FISH で 5 題、造血器領域は IGH/BCL と IGH で各 2 題 20 細胞について出題した。回答方法は、HER2 は陽性・陰性・境界域・判定不能、ALK は陽性・陰性・判定不能、IGH/BCL、IGH は 1 細胞ごとに典型陽性・陰性・判定不能と設定した。

【提示スライドおよび使用プローブ】サーベイで使用した写真は世話人の施設で実際検査された症例をもとに作成された。プローブはそれぞれパナビジョン HER-2 DNA プローブキット、Vysis ALK Break Apart FISH プローブキットを使用した。IGH/BCL は Vysis LSI IGH/BCL Dual Color, Dual Fusion Translocation Probe を使用し、IGH は Vysis LSI IGH Dual Color, Break Apart Rearrangement Probe を使用した。

【結果】参加数は HER2 が 62 施設、ALK が 41、IGH/BCL が 32、IGH が 38 施設であり、前回微減であった。フォトサーベイの平均正解率は、HER2 は 86.6%、ALK は 86.0%、BCR/ABL は 95.6%、IGH は 95.3%であった。HER2 では、正解率が 80%未満となる設問が 4 題、ALK では 1 題、IGH/BCL2 では 1 細胞と低い設問があった。

【まとめ】正解率の低い問題では、シグナルの読み方や捉え方、または陽性像に対する理解や認識の不足が考えられた。サーベイ後の研修会にて、参加者の考えや意見を吸い上げ、ディスカッションを行う予定であり、その問題点について検証した結果を発表報告する予定である。

連絡先：044-977-8111